

# 古河電池

自動車用鉛蓄電池正極板

## 生産性と性能両立

# 新製法の採用本格化

古河電池は、自動車用鉛バッテリーの極板の製造方式で、「ストロンクフレーム」と呼ばれる方式の採用を本格化する。ストロンクフレームは打ち抜きによる製造法で、形状設計の自由度や生産性に優れる。昨春立ち上がったいわき工場（福島県）の新ラインで取り入れ、補修用バッテリーではすでに一部採用を開始。自動車メーカーの評価を経て、2016年度以降に新車向けでも新方式の採用を目指す。

## 形状設計の自由度増す

鉛バッテリーは基本的に、鉛と鉛合金でできた正負極と、電解液で構成される。その鉛極板の製造方式として

は主に1枚ずつ铸造するブックモールド方式、連続铸造方式、板に切れ目を入れて引張り成形するエキスパ

ンド方式があり、それぞれ設計対応や生産性に特長を持つ。ストロンクフレームは、打ち抜き成形する

ため製品特性に合わせた極板の形状設計の自由度が高い。同社はこれまでブックモールド方式と連続铸造方式を採用してきたが、ブックモールドで造る正極板の一部を昨年よりスト

ロンクフレームに切り替えた。これにより、生産性と性能の向上を両立できる。

補修用バッテリー向けでは、ストロンクフレーム方式を取り入れた製品の出荷を始めている。新車向けについては自動車メーカーの認定を受ける必要があるため、現在評価を受け始めた段階。補修用で使用実績を積みなが

ら、新車向けでも今後は新方式を取り入れられるようにし、競争力の強化を図る。タイ工場にも昨年、ストロンクフレーム方式のラインを導入。タイでは負極で新方式の

採用を始めている。いわきとタイで正負極それぞれの開発や改善を進め、将来的に技術を統合して両極とも新方式を採用した商品の実用化につなげていきたい考えだ。